

「ご近所だんぎ」ってなにをするところ？

一人暮らしで…
夜中に急に具合が悪くなったらどうしよう…
話し相手がほしい。もう3日も誰とも話していない…

子育て中に…
子どもが夜一人になるけど大丈夫かしら…

年をとってきて…
雪が降ったら滑りそうでゴミ出しに行かない…

引っ越ししてきて…
近所に知っている人がだれもない…どんなふうに声をかければいいのか？

こんなとき、ご近所同士でさりげなく「助け合える」関係があったらどんなに安心なことでしょう。

「ご近所だんぎ」が始まったきっかけ

平成19年11月に、石山地区公民館で行われた介護講座の参加者の方から「退院後、近くに頼れる人がいないために、5日間粉ミルクと流動食でしのいでいた」「夫が一時も目が離せない状態で退院してきた。どうしたらいいのだろう」という話がありました。

ご近所とのつながりが希薄化する中、昔であればお隣さんに「ちょっとお願い」と頼んでいただくことができず、一人で不安や孤独を抱えながら暮らしている人は、身近にいるということ、そして、決して他人事ではないことを知りました。

私たちが住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、ご近所とお互いに則を越えず、困ったときに気軽に助け合える関係を築いていくことは、地域に住むみんなの共通の問題ではないでしょうか。

そこで、まずは「身近なご近所での支えあい」について気軽に話し合う場を持つ、それを広げようと、平成19年12月から月1回のペースで「ご近所だんぎ」が始まりました。

「ご近所だんぎ」が目指すもの

この「ご近所だんぎ」を通じて、ご近所の方と顔見知りになることから、私たちが、ご近所の大切さに改めて気づき、「あいさつをする」「ちょっと気になる人がいる」「ちょっと手伝おう」「ちょっと助けて」……というように「地域の中で助け合う・支えあう関係、気軽に助けてと言える関係」が増えていくことです。

毎月違ったテーマのお茶のみ話へ、ぜひご参加ください。